

鎌倉市鍋木清方記念美術館 年報

2022年度（令和4年度）

Annual Report 2022.4-2023.3

鎌倉市鍋木清方記念美術館

Kamakura City Kaburaki Kiyokata Memorial Art Museum

目次

目次	1
ごあいさつ	2
I 沿革	3
II 動向	4
III 活動記録	
1. 展覧会	6
2. 教育普及	
1. 講演会	22
2. 展示解説	22
3. 市民講座	23
4. 子ども参加プログラム・一般来館者向けプログラム／ワークショップ	24
5. 市民サポートスタッフ	27
6. 客員研究員・市民サポート客員研究員	27
7. 館外活動	27
8. 映像コーナー	30
9. 図書コーナー	30
3. 収集・保存	
1. 収蔵作品数	31
2. 令和4年度収集作品	31
3. 保存修復	33
4. 貸出事業	34
4. 調査・研究	
1. 刊行図録	34
2. デジタルアーカイブ	34
3. アンケート概要	35
5. 広報・宣伝	36
6. 共催・連携	37
7. 企画協力	37
IV 資料	
1. 施設概要	38
2. 利用案内	38
3. 組織及び職員名簿	38
4. 入館者数	39
5. 美術館設置条例	39
V 鏑木清方に関する資料	
1. 鏑木清方に関する文献目録	43
2. 鏑木清方に関する展覧会記録	70

ごあいさつ

鎌倉市鏑木清方記念美術館は、近代日本画の巨匠 鏑木清方の業績を広く後世に伝えるため、ご遺族から鎌倉市へ寄贈された旧居と美術作品・資料をもとに平成 10 年 4 月に開館しました。

このたび、令和 4 年(2022 年)4 月から令和 5 年(2023 年)3 月まで、令和 4 年度に実施した事業を中心に、活動の記録をまとめました。

コロナ禍 3 年目となった当年度は、前年度に引き続き感染症対策に取り組みながら事業を実施しました。

展示事業は、令和 2 年度に中止した特別展の代替分として、通常特別展 3 回・企画展 5 回のところ、特別展 4 回・企画展 4 回を開催しました。令和 4 年 3 月から 7 月にかけて東京国立近代美術館、京都国立近代美術館では清方の没後 50 年展の大回顧展が開催され、メディアで日本画家・鏑木清方が大きく注目される年でもありました。当館では、初めて清方を知った方々にもさらに深く清方の画業を知っていただけるよう、普段公開されない個人コレクションからの借用作品や、他作家との作品を交えた展覧会を開催しました。また、新たに寄贈された初公開の収蔵作品も多数展示したほか、清方がデザインした着物なども紹介し、多角的な視点からの清方芸術の発信に努めました。

普及事業では、社会見学の受入れ、園児向けの鑑賞会、児童養護施設での出張型ワークショップの開催など、子どもたちが美術館へ足を運び、関心を持つ機会を増やしました。

調査研究では、新たな叢書を刊行、作品修復においては、清方関連の写真資料を多数デジタル化することで、資料等の活用を広げました。

感染症拡大の影響で大きく活動が制限された中での様々な試みを活かしながら、今後も清方芸術と近代日本画の魅力を伝えてまいります。

これからも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和 6 年 3 月

公益財団法人鎌倉市芸術文化振興財団
鎌倉市鏑木清方記念美術館

I 沿革

平成 2、3 年頃	山田肇氏(鏑木清方の娘婿。当時 明治大学名誉教授、演劇評論家)が、鏑木清方の作品の散逸を防ぎ、その業績を永く後世に伝えるため、清方の終の棲家となった土地、建物及び所有する作品等を活用した記念館の設立等について、横浜美術館等に相談。その意向は鎌倉市に伝えられ、市が受け入れ等の準備を始める。
平成 5 年 10 月	寄贈の意向が鎌倉市に正式に伝えられる。
平成 6 年 3 月	遺族から土地(955.27 ㎡)、建物(214.11 ㎡)及び作品の一部(26 点)が鎌倉市に寄贈される。
平成 6 年 7 月	「(仮称)郷土記念館・美術館基本構想検討委員会」設置(座長:鎌倉風致保存会会長 上野豊氏)。以降計 6 回の検討会を経て基本構想がまとめられる。
平成 6 年 10 月	「受贈記念 鏑木清方展」を鎌倉国宝館にて開催。
平成 7 年 6 月	(仮称)郷土記念館・美術館基本構想検討委員会報告書提出。 展示設計委託、基本設計、実施設計、地質調査委託、近隣住民調整を実施。
平成 7 年 12 月	鎌倉市議会で補正予算が承認される。(建設工事費・家屋解体工事費・家屋事前調査費)
平成 8 年 2 月	鏑木清方旧宅解体。
平成 8 年 4 月	着工。
平成 9 年 8 月	横浜美術館に保管されていた作品の鎌倉文学館、鎌倉市立図書館への移管を開始。 建物竣工。 財団法人鎌倉市芸術文化振興財団へ施設管理委託。外構・庭園の工事实施。
平成 10 年 3 月	工事竣工
平成 10 年 4 月 17 日	鎌倉市鏑木清方記念美術館開館 。開館記念式典開催。
平成 17 年 9 月	入館者数 20 万人達成。
平成 18 年 4 月	指定管理者制度導入により、財団法人鎌倉市芸術文化振興財団(平成 24 年 4 月公益財団法人に移行)が管理運営を行う。参与を廃し、館長に真室佳武氏を任命。
平成 20 年 1 月	初の出張展示「鏑木清方の芸術展」を、美術館「えき」KYOTO にて実施。
平成 20 年 4 月 24 日	特別展 開館 10 周年記念展「清方の美 ―その叙情―」初日に開館「10 周年記念の集い」を開催。
平成 29 年 4 月	入館者 50 万人達成。
平成 30 年 4 月	特別展「開館 20 周年記念 鏑木清方の芸術展」を開催(5 月 23 日まで)。 「開館 20 周年記念式典・内覧会」を実施。(19 日)
令和 5 年 2 月	入館者 60 万人達成。

Ⅱ 動向

- 令和4年4月1日 鎌倉市鐮木清方記念美術館設置条例の改正に伴い、鎌倉市民の観覧料が無料に。
- 令和4年4月2日 3日との計2回、子ども参加プログラム「浮世絵の多色摺り技法を体験してみよう！」を実施。
- 令和4年4月14日 特別展「美しきおもかげ 一物語の女性たち」を開催。(5月18日まで)
- 令和4年4月19日 当館スタッフ、客員研究員による市民講座を実施。(1日1回、4月23日まで)
- 令和4年5月6日 展示解説動画を公開。(5月18日まで)
- 令和4年5月17日 鎌倉駅地下道ギャラリーにて子ども参加プログラムでの制作作品を展示。(5月23日まで)
- 令和4年5月21日 特別展「日本画の美 一清方とゆかりの画家たち」を開催。(6月26日まで)
- 令和4年6月14日 美術講演会「清方の師・水野年方 一浮世絵と日本画の架け橋」(講師:日野原健司氏)を開催。
- 令和4年6月19日 日本画ワークショップ「土絵具を使って、絵を描こう！」を実施。
- 令和4年7月2日 企画展「夏から秋へ 一季節のよそおい」〈前期〉を開催。(8月7日まで)
展示会関連事業として「着物で楽しむ美術館」を実施。(9月11日まで)
「夏休み親子鑑賞」を実施。小・中学生と同伴者を無料とし、子ども向けの解説書を配布。
(9月11日まで)
NPOとの連携事業として、子ども向けに美術館での過ごし方を紹介する動画をホールにて上映。(9月11日まで)
- 令和4年7月17日 日本画ワークショップ「日本画材を使って、うちわに絵を描こう！」を実施。
- 令和4年7月27日 NPOとの連携事業「親子で美術館へ行ってみよう！美術館で絵画鑑賞と日本画入門体験！」を実施。
- 令和4年7月28日 29日との計2回、子ども参加プログラム「日本画の技法、垂らし込みを使って、絵を描いてみよう！」を実施。
- 令和4年8月4日 5日との計2回、子ども参加プログラム「石版画の仕組みを体験してみよう！」を実施。
- 令和4年8月11日 企画展「夏から秋へ 一季節のよそおい」〈後期〉を開催。(9月11日まで)
- 令和4年8月28日 鐮木清方誕生日記念イベントを実施。(9月3日まで)
- 令和4年9月1日 展示解説動画を公開。(9月11日まで)
- 令和4年9月15日 特別展「渡辺省亭生誕170年記念 鐮木清方と渡辺省亭 一江戸画人の水脈」を開催。
(10月19日まで)
- 令和4年9月18日 日本画ワークショップ「砂子を用いて、日本画を描こう！」を実施。
- 令和4年9月20日 鎌倉駅地下道ギャラリーにて子ども参加プログラムでの制作作品を展示。(9月26日まで)
- 令和4年10月1日 「鎌倉文化ゾーン〔小町通り・八幡宮エリア〕ミュージアムめぐりスタンプラリー」を実施。(3月31日まで)
- 令和4年10月9日 展示解説動画を公開。(10月19日まで)
- 令和4年10月15日 日本画ワークショップ「隈取りの技法を使って、墨絵を描こう！」を実施。

令和4年10月22日 特別展「清方の大正時代 ―至上の美を求めて―」を開催。(11月27日まで)

令和4年11月12日 第2、第4土曜日に実施している対面での展示解説を正式に再開。

令和4年11月15日 美術講演会「大正デモクラシーのなかの清方」(講師:角田拓朗氏)を開催。

令和4年12月2日 企画展「冬の輝き ―美人画と押絵羽子板―」を開催。(1月9日まで)

令和4年12月18日 日本画ワークショップ「日本画材で羽子板に絵を描こう!」を実施。

令和5年1月4日 「新春福引」を実施。(9日まで)

令和5年1月5日 山口蓬春美術館との連携事業として「鎌倉・葉山 近代日本画家の旧居跡めぐり」を実施。
(2月26日まで)

令和5年1月14日 企画展「うつりゆく時代を見つめて ―江戸から東京へ―」を開催。(2月26日まで)
展覧会関連事業として「着物で楽しむ美術館」を実施。(2月26日まで)

令和5年2月15日 入館者数60万人達成。

令和5年3月3日 企画展「花咲くよろこび ―清方が描いた花々―」を開催。(4月9日まで)

令和5年3月26日 「春休み親子鑑賞」を実施。小・中学生と同伴者を無料とし、子ども向けの解説書を配布。
(4月4日まで)

27日との計2回、春休み子ども参加プログラム「絵絹に日本画材で描いてみよう!」を実施。

令和5年3月30日 収蔵品データベースに追加公開。

令和3年度年報をホームページ上に公開。